

関東ESD推進ネットワーク 第6回 地域フォーラム

ユースと社会の関りによる、深い学びを考える



Education for
SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

関東地方ESD活動支援センター（関東ESDセンター）
関東地方環境パートナーシップオフィス（関東EPO）
令和5年3月5日

関東地方ESD活動支援センター

持続可能な開発目標（SDGs）



関東地方ESD活動支援センター

SDGsがつけられたプロセス



関東地方ESD活動支援センター

MDGsとは



※アイコン(特活)はつけない世界のまじしと作成

1. 極度の貧困と飢餓の撲滅
2. 普遍的初等教育の達成
3. ジェンダーの平等と推進と女性の地位向上
4. 乳幼児死亡率の削減
5. 妊産婦の健康の改善
6. HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止
7. 環境の持続可能性の確保
8. 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

関東地方ESD活動支援センター

COVID-19が象徴していること

自然への侵略

- 人間活動の拡大
- 生態系への影響

グローバル化

- 経済活動の拡大
- 移動の拡大

SDGsができた理由

**人類の生存危機
同時解決が
求められている**

地球の限界

人権の危機

持続可能な開発のための2030アジェンダ

我々の世界を変革する：
持続可能な開発のための
2030アジェンダ

前文

宣言

SDGsとターゲット

実施手段とグローバルパートナーシップ

フォローアップとレビュー

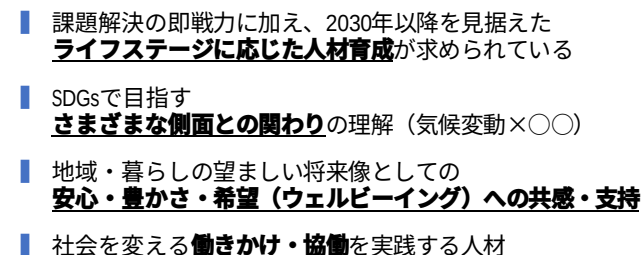
誰一人取り残さない

5つのP



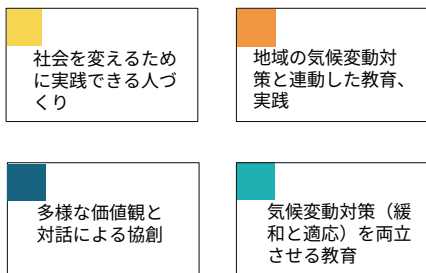
- 1

1



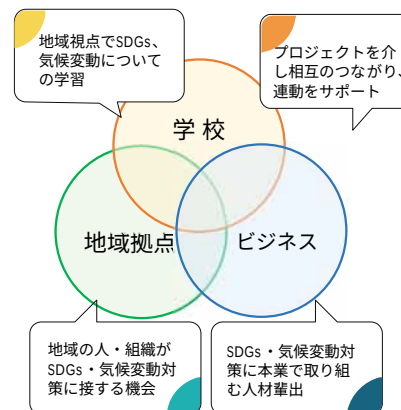
気候変動を切り口としたESD

気候変動を切り口に、地域の課題から学びと実践を連鎖させる



気候変動を切り口としたESD

気候変動を切り口に、地域ESD推進拠点とともに社会を変革する基盤を構築する



- 地域を面とらえ、**学校、社会教育拠点、ビジネスセクター**の3領域の関連付けを意識し、地域ESD推進拠点と連携した学びあいプロジェクトを展開する
- ライフステージに応じた学びの場をつくる
- 地域ESD推進拠点による地域での**取り組みを支援し、広域で横断的なネットワーク**を形成する
- 持続可能・脱炭素に向かう**社会の動きをつなげ、人づくりの裾野を広げる**
- 気候変動を切り口にESDで育む、
 - 課題解決と価値創造の基礎力
 - 社会変革の構想力
 - 脱炭素地域づくりの推進力

関東ESD推進ネットワーク 第6回 地域フォーラム

生物多様性・ネイチャーポジティブ

生物多様性の三つのレベル

●生態系の多様性 干潟 サンゴ礁 森林 草原 湿原 河川 など	サンゴ礁	湿原	森林
●種(種間)の多様性 地球上の推定生物種数 500万～3000万種 (IUCN 2008 レッドリスト 公表時資料による)	オラン	カドモツ	ツマンネコ
●種内(遺伝)の多様性 (例)サクラソウ 遺伝的に複数の 地域集団が存在	サクラソウ	(例)アサリの貝殻 貝殻の色や模様 は千差万別	アサリ

地域に固有の自然があり、それぞれに特有のいきものがいること
そして、それらがつながっていること

日本の生物多様性の4つの危機

1 開発など人間活動による危機

土地利用の転換、埋立、乱獲など人が引き起こす負の要因による影響

2 自然に対する働きかけの縮小による危機

人手によって維持されてきた里地里山の管理不足、鳥獣による被害の深刻化

3 人間により持ち込まれたものによる危機

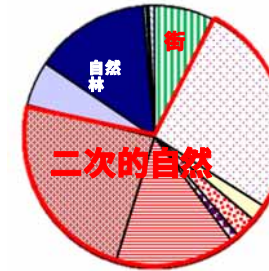
外来種など人間により外部から持ち込まれたものによる影響

4 地球環境の変化による危機

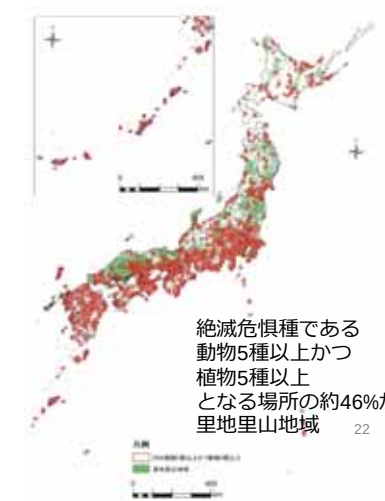
地球温暖化、巨大台風の頻度の増加などの気候変動など地球環境の変化による影響

昆虫類、淡水魚類、両生類の約7割が二次的自然（里地里山等）に生息

里地里山絶滅危惧種集中分布図



両生類の絶滅危惧種分布の植生別記録割合

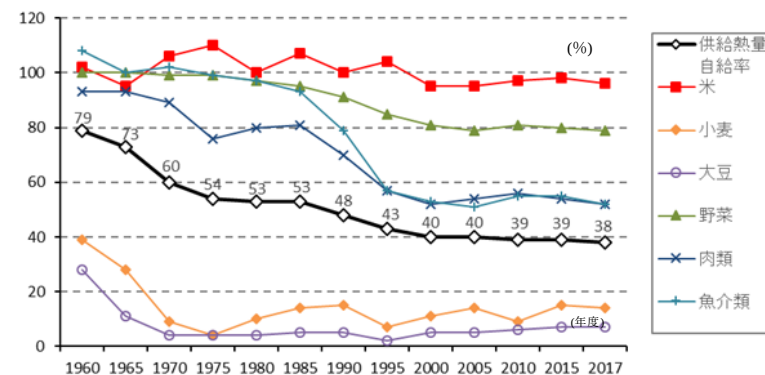


絶滅危惧種である動物5種以上かつ植物5種以上となる場所の約46%が里地里山地域

データ出典：平成27年度絶滅のおそれのある野生動植物種の保全技術向上検討委託業務、環境省（2009）里地里山保全・活用検討会議 平成20年度第3回検討会議資料

世界の生物多様性に依存する日本の暮らし

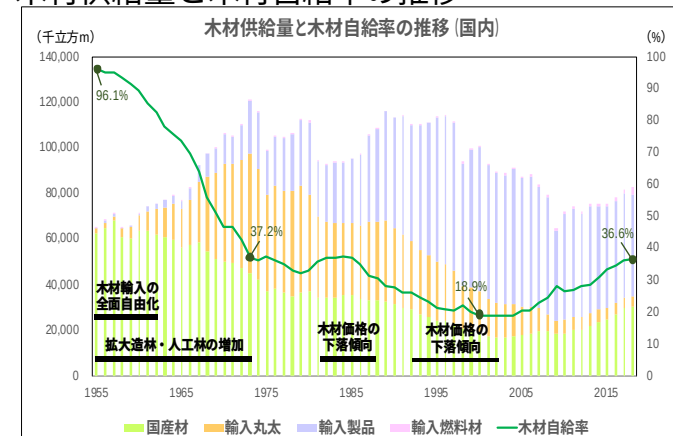
・食料自給率の推移



出典：農林水産省「食料需給表」より作成
注：1960年以降5年おきの数値を示すが、最新の数値は2017年度。

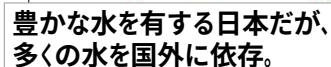
世界の生物多様性に依存する日本の暮らし

・木材供給量と木材自給率の推移



出典：林野庁「木材需給表」より作成。

バーチャルウォーター輸入量 食料輸入国において、もしその輸入食料を自国で生産するとしたら、どの程度の水が必要かを推定したもの。



第2の危機 里地里山などの手
入れ不足による自然
の質の低下

里地里山→国土面積の約4割

- ・水田の放棄
- ・水路管理の放棄
- ・人工林の管理不足



里地里山特有
の生物の減少



野生鳥獣との
軋轢

**自然を回復軌道に乗せるために
生物多様性の損失を止め、
反転させるための緊急の行動をとる**

ネイチャーポジティブ
生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる

消費と生産物の削減
土地利用変化
汚染、建設の外資、瓦葺
国家家族計画
生態系の保全と回復
NAP（今後まだ未定）

CO₂E
2000 2010 2020 2030 2040 2050

生物多様性の損失を減らし、回復させる行動の内訳

出典：地球規模生物多様性概況第5版(GBOS)（2020）

出典：地球規模生物多様性概況第5版(GBO5)(2020)

出典：地球規模生物多様性概況第5版(GBO5)(2020)

27

30by30目標って？

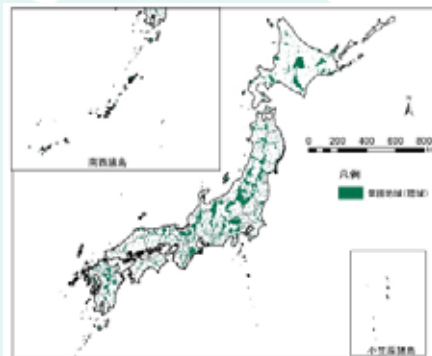
**2030年までに陸と海の30%
以上を保全する目標です。**

日本ではどのぐらいの面積が保全されているの？

陸域20.5%と海域13.3%が保護地域です

2020年までの愛知目標は達成

- ①「愛知目標」では2020年までに陸域17%、海域10%が目標。
- ②日本では、陸域は20.3%で既に愛知目標を達成。その後、奄美や沖縄の国立公園の指定等により20.5%。
- ③海域は8.3%だったが、2020年に「沖合海底自然環境保全地域」という制度をつくり、小笠原方面を新たに指定し、13.3%。



生物多様性のための30by30アライアンスについて

30by30をみんなで進めていくための有志連合

- 環境省を含めた産民官17団体を発起人とする「**生物多様性のための30by30アライアンス**」を2022年4月に発足。企業、自治体、NPO法人等、計366者が参加（2023年2月8日現在）
- 自らの所有地や所管地内のOECM登録や保護地域の拡大を目指す／そうした取組を応援するなど、**30by30の実現に向けた行動をとる仲間たちの集まり**。
(自治体：宮城県、新潟県、兵庫県豊岡市など24団体)
(企業：トヨタ、イオン、パナソニックなど84団体)

参加方法とその効果

- 参加希望者は、自らの取組を事務局に登録（※随時受付）
- 参加による効果は以下の通り。

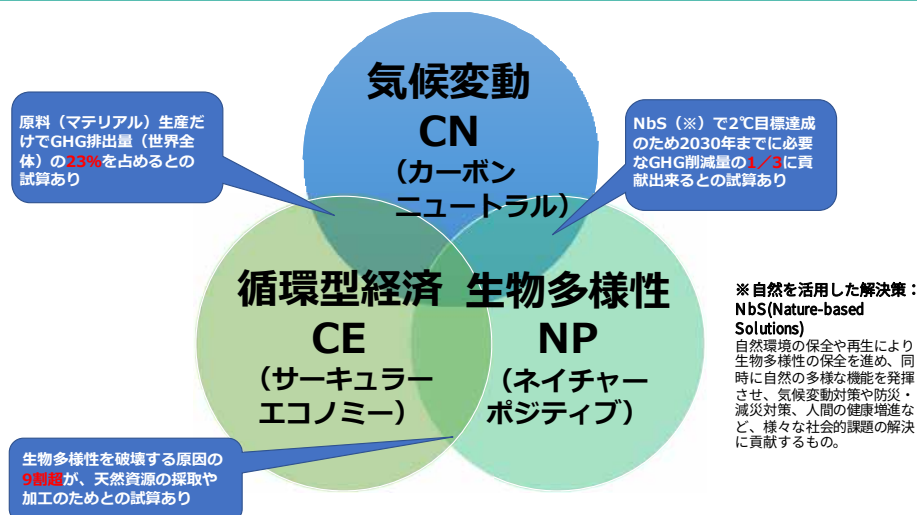
- 参加者をWebサイト上に掲載し、その取組を発信
- 自然共生サイト（仮称）の申請を支援
- ロゴマークを使って取組をPR 等



30by30アライアンスロゴ

モチーフとしてカエルを採用し、その中に森や海といった自然やそこに住む生きもの、さらには都市や角など人々の生業を配置。
カエルの体部分（上部）は森林など陸域をイメージした緑基調の和紙、顔の部分（下段）は、海や川など水域をイメージした青基調の和紙で表現。

CN（カーボンニュートラル）・CE（サーキュラーエコノミー）・NP（ネイチャーポジティブ）の一体性



関東ESD推進ネットワーク 第6回 地域フォーラム

「ESD for 2030」・第2期国内実施計画 新学習指導要領のスタート

ESDとは？

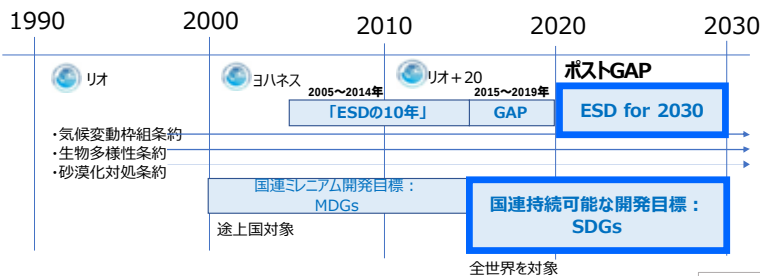
ESD（Education for Sustainable Development）

持続可能な開発のための教育

地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育です。

「持続可能な開発のための教育(ESD) 推進の手引」より
文部科学省国際統括官付/日本ユネスコ国内委員会

ESD推進の経緯



ESD Education for Sustainable Development
SDGs Sustainable Development Goals



第2期ESD国内実施計画 ～ SDGs達成のための教育の推進 ～

令和3年5月
文部科学省・環境省

第2期ESD国内実施計画

○ オールジャパンで我が国のESDを推進するとともに、世界のESDをリードしていくために、関係省庁が連携し、ESD国内実施計画を策定。

○ 次期計画では、「ESD for 2030」の理念を踏まえ、ESDがSDGs達成への貢献に資するという考え方を初めて明確化。ジェンダー平等、2050年カーボンニュートラル、AI-DXの推進等を踏まえつつ持続可能な社会の創り手を育成。

○ ESD実現のため多様なステークホルダーを巻き込む方策や、「ESD for 2030」に示された5つの優先分野ごとに国内の各ステークホルダーが実施する取組を記載（具体的に以下のとおり）。

1. ESDを実現するために多様なステークホルダーを巻き込む

○ 政府はユネスコユネスコプラットフォーム（ユネスコ推進ネットワーク）等を活用し、自治体、NGO、NPO、企業、研究・教育機関等と協働的なネットワークを強化。

○ 国内のみならず国際的にも協働関係を築き、連携を図る。

2. ステークホルダーごとの具体的な取組を5つの優先分野別に記載

1. 政策の推進
2. 学習環境の充実
3. 教育者の能力強化
4. コースのエンパワーメントと参加の奨励
5. 地域レベルでの活動の促進

我が国における「持続可能な開発のための教育(ESD)」に関する実施計画
(第2期ESD国内実施計画)

令和3年5月31日決定 持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議

第2章 具体的な取組

2. 実施のためのメカニズム（重点実施領域）

(1) ステークホルダーのネットワーク・情報発信の強化

また、政府は、ESD推進ネットワークのハブ機能を担うESD活動支援センター（1か所）及び地方ESD活動支援センター（8か所）を運営し、①情報共有機能、②ESD活動に関する各種相談対応や 連携促進等の支援機能、③ネットワークの形成及び学びあいの促進機能、④人材育成機能、の4つの機能の発揮を追求することにより、ESDの全国的な展開、支援体制の充実、様々な主体によるESD活動の高度化と多様な連携を推進する。

本ネットワークにより全国で等しくESD実践のための支援を受けられる体制を維持するとともに、ネットワークの拡大を受けてテーマ別の学びあいの仕組みを導入し、ESD活動の高度化を図る。

さらに、多様な主体が参画する本ネットワークの特性を踏まえ、ネットワークを拡大しつつ重層化を進める。

<参考> 前 ESD国内実施計画（平成28年3月 ESD関係省庁連絡会議決定）における関連記述

● 全国的なESD支援のためのネットワーク機能の体制整備

ESD関係省庁連絡会議及びESD円卓会議での議論を踏まえ、ESD活動に取り組む様々な主体が参画・連携し、地域活動拠点の形成とともに、地域が必要とする取組支援や情報・経験を共有できる「ESD活動支援センター（全国・地方）」を整備し、地域の実態を踏まえた効果的な運用を図っていく。

学習指導要領の改訂

■ 前文（幼・小・中）

これからの学校（幼稚園）には、・・・一人一人の生徒（幼児・児童）が、・・・自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようになる・・・ことが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校（幼稚園）において教育の内容を体系的に組み立てた教育課程である。

この考え方は、
ESDそのものです

平成29年3月31日公示 新学習指導要領

国東地方ESD活動支援センター

「生きる力」を育むために
子供たちの学びはどう進化するの？

主体的・対話的で深い学び
（アクティブラーニング）

の観点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善します。



カリキュラム・マネジメント

を確立して教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ります。



学んだことを人生や
社会に生かそうとする
学びに向かう力、
人間性など



実習の社会や
生活で生きて働く
知識及び技能
思考力、判断力、
表現力など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、
三つの力をバランスよく育みます。

文科省リーフレット



地方ESD活動支援センター



国東地方ESD活動支援センター

関東ESD活動支援センターの活動

- ① ESD活動を支援する**情報共有機能**
- ② 現場のニーズを反映した**ESD活動の支援機能**
- ③ ESD活動の**ネットワークの形成機能**
- ④ 人材育成機能

Facebookでも、
日々の活動など情報
発信中！いいね！を
お願いします。

2022.12.20 2023年度 入試情報
500名実証報告会
 ○日時：令和4年11月10日（土）9:30～12:30
 ○場所：芝浦区立大田キャンパス6F4F会議室（目黒区目黒3-15-1）
 ○申込締切：令和4年11月10日（日）

[illegible]

中・高生なら誰でも参加できる
SDGs文化祭



【令和4年度 SDG+文化芸術委員会 概要】	
日時	令和4年8月3日（水）13:30～14:00 キックオフ：中環国立大学の学び舎 令和4年8月23日（土）14:00～16:30 2nd session：企業のSDG+戦略と文芸 令和4年8月27日（火）16:00～18:00 第3回～
実施場所	オンライン（Zoom）
主催	SDG+文化芸術委員会、1-SDG+文化芸術委員会
協力	アール・エス・コバヤシ、ネットワーキング・ジャパン、CC文化創造推進財団、SDG+研究会
内容	SDG+の現状と今後のユースケースについて、SDG+の課題解決に向けてユースケースが共有されるアクション、主要SDG+担当者による社会人や学生間の世代間の交流を通じて、SDG+の推進力を高める。



 関東地方 ESD 活動支援センター
 高校の探究の時間で
 SDGsに取り組むには、
 どうすれば良いかを考える勉強会

日時 令和4年8月8日（月）14:00～16:30
場所 東京ウィメンズプラザ・視聴覚室B・C
対象 教員、教育委員会の方（主に、中高）
参加費等 無料
主催 関東地方ESD活動支援センター
協力 （一社）ESD TOKYO



学校現場・社会教育の現場では、さまざまな主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいます。

そうした現場のESDを支援・推進する役割を担う組織・団体を「ESD推進ネットワーク」における「地域ESD活動推進拠点」（地域ESD拠点）として登録することができます。

【3/5現在】 全国：174件・内関東：45件

- 【茨城県】 認定NPO法人茨城NPOセンター・コムズ/キヤノンエコテックパーク/BEK Lab (べくらぼ)
【栃木県】 (特非) エコロジーオンライン/ (特非) 栃木県環境カウンセラー協会
(一社) 社会デザイン協会/アジア学院/那須高原自然学校
【群馬県】 チャウス自然体験学校 ((特非) チャウス)/きりゅう市民活動推進ネットワーク
サンデンフォレスト (サンデンファシリティ(株))/上州くまESD実践研究会
藤岡市ボランティアネットワークセンター ウィズ
【埼玉県】 筑波大学附属坂戸高等学校/ (一社) 里山こらぼ
【千葉県】 (特非) 環境パートナーシップちば/ち〜ば国際教育ネットワーク (CIEN)
流山防災まちづくりプロジェクト/一般社団法人銀座環境会議
【東京都】 (一社) 新宿ユネスコ協会/成蹊学園サステナビリティ教育研究センター
立教大学ESD研究所/多摩大学アクティブ・ラーニング支援センター
(特非) 新宿環境活動ネット/聖心女子大学グローバル共生研究所/晃華学園中学校高等学校
(一社) ESD TOKYO/ (特非) 持続可能な社会をつくる元気ネット/ (特非) 渋谷川ルネッサンス
【神奈川県】 認定NPO法人アクト川崎/ (特非) 横浜市民アクト/かわさき環境教育学習プロジェクト
【新潟県】 学校法人日本自然環境専門学校/ (公財) 鼓童文化財団/新潟市水族館マリニピア日本海
(一社) あがのかわ環境学舎/ (一社) 新潟市ユネスコ協会/フォッサマグナミュージアム
【山梨県】 (公財) キープ協会
【静岡県】 (特非) アースライフネットワーク/伊豆半島ジオパーク推進協議会・教育部会
(一社) 自然エネルギー推進機構/(公財) ふじのくに未来財団/VISIONARY INSTITUTE
静岡県三ヶ日青年の家

令和4年度 ESD2030学び合いプロジェクト（関東）
～気候変動による影響と対策に関する、学びと実践～（概要）



③ ESD活動のネットワークの形成機能

地域セミナーin千葉

日時：令和4年12月4日
会場：千葉県教育会館



地域ESD拠点研修会

日時：令和5年3月5日
会場：ウィメンズプラザ



写真はR元年度の模様

③ ESD活動のネットワークの形成機能

関東ESD推進ネットワーク第6回 地域フォーラム

【開催概要】

- ・日時：令和5年3月5日（日）13:00～17:00
- ・場所：東京ウィメンズプラザ
- ・対象：SDGs、ESDにご関心のある行政、NPO、学生（小中高大）、企業の方など

ユースと社会の関りによる、深い学びを考える

#ESDfor2030

Education for
SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

④ 人材育成機能

第39回 全国ボランティア推進
団体会議（民ボラ）in東京
令和4年5月28日（土）・29日（日）
東京ボランティア・市民活動セン
ター 及び オンライン

令和4年度環境教育研修会
（千葉市立小中学校教員向け）
～地域で連携した環境教育・
ESDを実践、推進するために～
令和4年11月30日（水）
オンライン（Zoom）

日本学術会議inつくば 公開講演会
「持続的かつレジリエントな道筋へ
の移行」
令和5年2月15日（水）
防災科学技術研究所

